

## JACTFL シンポジウム 2023

### 横浜市立みなと総合高等学校の多言語活動の取り組みについて

温悠（横浜市立みなと総合高等学校）

#### 1. パフォーマンス評価と指導案づくり

平成 29 年度慶應義塾大学外国語教育研究センターが文部科学省「教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業（グローバル化に対応した外国語教育推進事業）」の委託を受け、横浜市立みなと総合高等学校は、平成 30 年度から拠点校として参加した。

この取り組みでは、新しい学習指導要領が掲げる「資質・能力」の育成を中心としたパフォーマンス評価と指導案づくりを中心に、大学関係者とドイツ語、フランス語、韓国語、スペイン語、中国語の高校の教員とが共に活動している。主な取り組みは、「単元指導案」を書き、公開授業を実施し互いに見学し、授業方法を検証することである。ワークショップ「多様な外国語教育に取り組む教師向けワークショップ—来年度の授業計画を立ててみよう—」が実施され、言語を超えた連携も行われてきた。

今年度（令和 4 年度）も「単元指導案」を書いて全体会で検討し、公開授業を実施して授業方法の検証を行った。講師を招き「授業参観ワークショップ」も実施し、1 月と 2 月には「グローバル化に対応した外国語教育」ワークショップに各言語の教員たちと共に取り組んだ。

#### 2. 横浜市立みなと総合高等学校の多言語活動の取り組みについて

発表者は、パフォーマンス評価と単元指導案の作成を上記事業で学び、中国語教育の場での実践として、同校のドイツ語科教員と英語科教員、他校の英語科教員と中国語科教員、行政の方と連携し、多言語活動に取り組んだ。多言語活動は、オンライン交流会、対面での交流会と教科横断型授業の方法で実施した。教員間の事前の情報共有ややりとりの方法は、対面形式のほか、オンライン形式も利用して相談した。話し合われたのは、生徒の学習状況や互いの授業進度に鑑みて、どのように授業または交流会を無理なくできるかであった。

多言語活動の中から、本報告では①同校ドイツ語科との交流会、②同校英語科グラマークラスとの教科横断型授業、③上海市の三つの高校と横浜市の二つの高校との五校合同オンライン交流会の実践紹介、④私立高校中国語有志とのオンライン交流会とその指導案、以上の四点について報告する。

#### 3. 複言語・多言語教育の普及モデルとしての教育実践を目指して

「教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業（グローバル化に対応した外国語教育推進事業）」は、個別言語の枠を超え、高大協働で複言語・多言語教育の普及モデルを志向してきた。

本分科会では、大学関係者、中等教育に携わる教員、教育に関わる企業など多くの教育関係者と複言語・多言語教育の普及モデルとしての教育実践やその推進について議論を深めていきたい。